

令和5年 第2回定例会

代表質問 鈴木ゆみ議員

令和5年 6月16日

▶質問

このたび4月に初当選させていただき、初めて質問の機会をいただきました、公明党の鈴木ゆみと申します。区民の皆様から負託された4年間、生まれ育った大好きな大田区を笑顔あふれる元気なまちにするため、小さな声を聞く力と、女性の代表として、女性の視点を大事にしながら、皆様の期待にお応えできるよう全力で働いてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

そして、新鈴木大田区長の下、先月の臨時会にて区立小中学校の給食費の無償化、带状疱疹ワクチンの接種費用の助成等を決定することができました。区議会公明党としても、緊急要望書等で訴えてきた重点政策が実現でき、区民の皆様から喜びと感謝の声が多数届いております。鈴木区長のスピード感を持った対応に感謝申し上げます。

さて、現在も子育てや福祉、防災や景気対策など喫緊の課題は多々ありますが、区民の皆様から、もっと大田区を盛り上げてほしい、コロナウイルスの影響でマスクの顔しか見たことがない子どもも多く、みんなの笑顔があふれるような元気になることをやってほしいとのお声をたくさんいただいております。私の政策で多くの方から賛同いただきましたプラン、(仮称)呑川プロジェクトを立ち上げ、呑川の沿道を桜の名所にして、出店やイベントができるスポットを新設、蒲田駅周辺を安心して楽しめる魅力あるまちづくりを推進し、観光誘致を促進することに挑戦をしております。

そこで、今回の一般質問では、その政策を実現するために、呑川の水質改善と観光施策、地域を盛り上げる観点から地域通貨の3点について提案をいたします。

まず初めに、呑川の水質改善についてお伺いいたします。

区の中央を流れる呑川は、貴重な自然環境資源として、区内の水と緑のネットワークを形成する重要な河川と位置づけられており、大田区で呑川を知らない人はいないというくらい有名な河川です。呑川がまちに潤いを与え、より親しみやすい水辺空間となるために、区では水質改善に取り組んでいます。しかし、呑川近隣の方や地域利用の方からは、雨の降り出し時は下水が混じるので、どぶのような臭いがする、洗濯物に臭いがつくといけななど、呑川を早くきれいにしてほしいとご要望をいただいております。生活環境の中での臭いは大変切実な問題です。そして、昨年につき、今年もボラの大量死が確認されており、呑川の水質について心配が広がっ

ております。

区では、約 20 年以上、様々な対策を講じ、その当時からは大幅に水質改善が図られており、その取組に感謝をいたします。しかし、いまだ水中の酸素濃度は環境水準を達成していない状況もあり、継続した対策が必要です。現在行っている主な水質改善対策として、1、河床整正工事、2、高濃度酸素水浄化施設の設置、3、スカ ム発生抑制装置の三つがあります。一つ目の河床整正工事は、夫婦橋から双流橋を対象に、汚濁物質が堆積しにくい川底に整える工事で、平成 28 年から令和元年の4年間で工事完了しておりますが、現在は行っておりません。二つ目の高濃度酸素水浄化施設は、水質浄化シミュレーションでは旧西蒲田五丁目児童遊園跡地と太平橋と夫婦橋の3地点に設置が必要という検証結果が出ておりますが、西蒲田五丁目のみ設置で、あと2地点は未設置です。三つ目のスカ ム発生抑制装置は、平成 11 年から2基稼働しておりましたが、平成 30 年に老朽化のため1基撤去、現在は1基のみの稼働です。

また、新たな取組の下水道対策は、雨の降り出し時の特に汚れた下水を貯留して、雨天時に放流される汚濁水を軽減する工事が東調布公園で開始しております。大幅な水質改善が期待できる工事ですが、工事完成まで 10 年ほどかかる見込みです。

ここで伺いいたします。当該工事完成までの 10 年間、どのような対策を行うのか、現在の三つの対策効果を鑑み、長期、中短期の計画と目標について、区の見解をお伺いいたします。

続きまして、呑川と同様に、合流式下水道方式で水質改善に取り組まれている、名古屋市中心部を流れている堀川を取組を紹介いたします。呑川と堀川の共通点は、海とつながっているため、潮の満ち引きの影響を受けてヘドロがたまりやすく、臭いや汚れもあり、時には酸欠で魚の大量死が発生するという点です。川を何とかきれいにしてほしいという市民の声を受け、行政が、都心部 300 メートル区間のヘドロの上に 30 センチほど砂をかぶせて覆う覆砂という実験を行いました。2年間の実験で、覆砂した区間は川底がくつきりと見え、透明感が高まり、臭いも感じなくなったとのことです。そして何より、砂の中にすむようになった小さな生き物を求めて鳥や魚も増え、劇的に改善された様子が報告をされております。

堀川を取組を参考に、呑川でも覆砂を実験的に行う価値があると考えますが、区の見解をお聞かせください。

そして、呑川の水質改善と並行して、呑川沿道が桜を増やして桜の名所になり、出店やイベントが開催できる魅力的な場所になるよう提案をいたします。京急蒲田駅からJR蒲田駅の呑川沿道は、現在、駐輪場として利用されておりますが、JR蒲田駅東口に地下駐輪場が整備されることにより、駐輪場スペースが空き地となります。駐輪場跡地の活用方法と呑川沿道の散策路整備計画につきまして、区の見解をお伺いいたします。

次に、区の観光施策についてお伺いいたします。

呑川沿道の桜の名所が蒲田の新しい観光スポットへと発展し、今後さらに蒲田駅周辺を安心して楽しめる魅力あるまちづくりを推進してまいりたい。特に蒲田は、新空港線整備が進むにつれてさらに注目度が高まり、羽田空港からも近いという立地を活かし、ビジネスマンや観光客、国内外の人々が集まり、にぎわいのまちになることが期待されます。

訪日外客数は、野村総合研究所の試算によると、コロナ以前の2019年同月水準を取り戻すのは来年2024年2月と予想しています。また、1人当たりの消費金額も現在21.2万円、コロナ前の15.9万円を上回っています。また、国内においては、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行し、各地の観光地にもにぎわいを見せております。観光施策は区の経済活性化のためにも大変重要な位置づけの一つであると考えます。

ここで、今後の観光施策と情報発信についてお伺いをいたします。これからますます観光が盛んになる傾向が予想されますが、区においては、速やかな具体策と、国内外の方にその取組が届くような情報発信がとても重要だと考えます。例えば、インフルエンサーや大田区観光PR特使の新たな発掘、出版社や旅行会社等民間企業と連携した取組、区民が企画運営する地域イベントへの区の協賛、資金面や情報発信を応援する仕組みづくりや、お勧めスポットを案内する区民によるツアーガイドなど、区の魅力を様々な角度で発信し、あらゆる世代の方が大田区の魅力を満喫できるような観光促進を提案いたします。

コロナ禍と現在の観光施策の違いについて、区の見解をお伺いいたします。また、今後の情報発信を含めた観光施策についてもお示しください。

最後に、地域通貨、(仮称)おおたペイについて提案いたします。

区議会公明党は、昨年10月、令和5年度予算要望書において、デジタル地域通貨導入に向けたプラットフォームを構築することを前松原大田区長へ要望し、議会質問でも取り上げてまいりました。地域通貨を導入することは、地域経済の活性化はもちろん、地域コミュニティの活性化、健康増進など、地域マネー以上の効果が期待できます。

深谷市の地域通貨ネギーは、地域内経済循環と地域課題活性化を図り、地域一丸となって持続可能な地域経営を実現することを目的としています。エコ活動やイベント、ボランティア参加、行政アンケートに回答すると、お礼として地域通貨ネギーをもらうことができ、受け取った住民は、登録店で食事や買物、納税、公共料金や手数料等の支払いに利用ができます。深谷市の人口の約42%が利用し、累計流通額は25億円と大きな経済効果を生んでいます。また、継続的に地域通貨を運営するために行政コストの削減に取り組んでおり、例えば、子育てチケットを地域通貨にすることで郵便代や職員の負担軽減をしたりなど、コスト削減分を地域通貨システムへの投資と市

民の地域貢献の自走化を促しております。

大田区においても、地域経済の活性化とともに、人と人、人とまちがつながるツールとして地域通貨を導入してはいかがでしょうか。

現在、地域経済の活性化の取組としてはプレミアム付商品券があります。今年度3回目のプレミアム付デジタル商品券の発売が決定し、20%分のプレミアムが付与され、物価高が家計を直撃する中、大変お得だと好評です。このデジタルプレミアム商品券で得た知見を活用し、地域経済を継続的に支援する仕組み、開発したアプリを商品券使用後も利用できるよう、地域通貨に発展させることはできないでしょうか。

また、深谷市同様、大田区でも地域の課題を地域力を高めて乗り越えていく必要があると強く感じています。町会や消防団等の高齢化や地域での防災力強化など、新しい人材をどうやって地域につなげていくかがとても重要であり、課題です。地域通貨の活用は、地域住民の社会参加への理解促進と意識を高めるきっかけとなり、大変効果があると考えます。区は、内閣府よりSDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業にダブル選定され、持続可能な自治体を目指す上でも、地域が元気になり、笑顔と温かさあふれる大田区となるためにも、地域通貨を導入するべきだと考えますが、区の見解をお伺いいたします。

以上、誰もが誇れる大田区、選ばれる大田区となることを希望し、私からの最初の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

<回答>

▶齋藤企画経営部長

私からは、区における地域通貨の導入についてお答えをいたします。

国は、デジタル田園都市国家構想総合戦略の中で、地方の経済社会に密接に関係する様々な分野におきまして、デジタルの力を活用し、社会課題の解決や魅力向上を図ることが必要であるとしてございます。地域経済及びコミュニティ活性化のためのデジタル地域通貨の流通促進も、その取組の一つに挙げられてございます。こうした中、都内においても、渋谷区のハチペイや世田谷区のせたがやペイなど、スマートフォンのアプリを利用した地域通貨が導入されてございます。本区もデジタル商品券事業においてアプリの利用実績がございます。このアプリ一つで、申込み、店舗検索、支払いなどに加えまして、店舗からのお知らせやクーポンの配信など、様々な機能を有してございます。こうした利便性の高さもあり、アプリ導入以前と比べて、登録店舗及び利用者とも参加が増え、満足度も高まっております。

一方で、地域経済やコミュニティを継続的に活性化させるためには、一過性の取組ではなく、複数の施策に横串を通して好循環を創出する持続可能な仕組みが求められております。そのため、これまで区が実施してきたデジタル商品券や地域通貨、各種ポイント・アプリなどを最適に組み合わせるためのプラットフォームの構築が必要となります。今回、議員からご質問を受けたことを踏まえ、引き続き、区では各種事業の検証を行うとともに、国の施策や先進技術の動向を注視しながら、先行自治体の取組を参考にし、地域通貨を含む総合的なプラットフォームを考えたいと思っております。

最後に、議員お話しのとおり、大田区はSDGs未来都市として、地域を元気にして、鈴木区長の掲げる笑顔と温かさのあふれる区政を行うことが重要でございまして、そのための有力なツールの一つとして検討してまいりたいということを申し添えさせていただきます。私からは以上です。

▶大木産業経済部長

私からは、観光施策に関する2問のご質問にお答えを申し上げます。まず、コロナ禍及び現在における観光の取組の変化に関するご質問ですが、区は、平成20年度に策定した大田区観光サインの設置やまちかど観光案内所の認定など、受入れ環境の整備を進めてまいりました。しかし、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、社会情勢が激変したことから、身近な観光資源の発掘と磨き上げを行う、いわゆるマイクロツーリズムに注力する形となりました。

この間、勝海舟記念館バーチャルツアーをはじめとするウェブ媒体による区の魅力発信や、品川区と連携した商店街巡り、また、観光協会の企画による臨海島部を巡るツアーなどを実施してまいりました。区は、誰もが知っているような定番の観光スポットは決して多くありませんが、活気に満ちた商店街や黒湯が豊富な銭湯、世界に誇る技術を有する町工場などをはじめとする地域や人のにぎわいは、来訪者にとって大田区ならではの付加価値のあるコンテンツになり得ると考えております。コロナ禍が収束しつつある今、こうした大田区ならではの魅力を束ね、より一層磨き上げていくことで、消費の拡大、地域経済の活性化につなげるとともに、その先にあるインバウンド需要を獲得していくことが、大田区における市街地観光の目指す姿であると考えております。引き続き、コロナ禍の間に蓄積をしたマイクロツーリズムのノウハウを活かし、地域の魅力を結集した観光施策を進めてまいります。

次に、観光情報の発信に関するご質問ですが、現在、観光情報の発信媒体といたしましては、区報やパンフレット、チラシなどの紙媒体と、ホームページやSNSといったデジタル媒体などを活用しております。これらの特徴として、紙媒体は手に取りやすく誰もが見やすい点、デジタル媒体は情報の更新が行いやすく、さらには情報の複製による、いわゆる拡散が期待できる点がメリットとして挙げられ、ターゲットや状況に応じた使い分けが重要と考えます。また、情報発信は媒体をつくって終わりではなく、より多くの方に情報をお届けすることが重要であります。このため区は、大田区商店街連合会や大田浴場連合会など各種地域団体との連携、マスコミ各社へのプレスリリース、大田区公式キャラクターはねびよんの積極的なイベント出演など、注目度の向上にも注力をしてございます。

紙媒体やグッズなどによる情報発信は、多くの方々の目に留まる場所での周知が極めて重要になることから、羽田空港との連携が不可欠と考え、現在、第3旅客ターミナル5階展望デッキ前のスカイロードにおける観光PR動画の放映や、羽田エアポートガーデン2階の外国人向け総合窓口での発信を行っております。さらに、来月19日より国際線の運航が再開される第2旅客ターミナルにおいて、ウェルカムセンターの活用に関する調整を行っており、第3旅客ターミナル観光情報ブースの充実と合わせた情報発信の活性化を進めてまいります。

ご提案がありましたインフルエンサーや観光PR特使の活用は、これまで区との関わりが少なかった方々へのアプローチにつながることから大変有効であると考えます。去年は、はねびよんとくまもんの連携、区内アーティスト制作のゆるキャラ「#消しかす。」の活用、人気ユーチューバーによるラーメン店紹介などを実施し、若い世代への情報発信にも一定の効果が得られたと考えてございます。情報発信に最も大切なことは知っていただくことです。一方的に伝えるだけではなく、多くの方に伝わる情報発信をより一層意識し、既存媒体の充実とともに、インフルエンサーや観光PR特使の発掘も視野に積極的な活用を図ってまいります。私から以上です。

▶遠藤都市基盤整備部長

私からは、呑川に関する3問のご質問にお答えいたします。

まず、呑川の水質改善対策に関するご質問でございますが、区は、東京都及び呑川上流域の世田谷区や目黒区と連携して呑川水質浄化対策研究会を開催し、総合的な水質浄化対策を進めてまいりました。まず、短期的・中期的な取組といたしましては、スカム発生抑制装置や河床整正工事による浄化対策のほか、酸素濃度の高い水を川底に送ることにより水質を改善する高濃度酸素水浄化施設を令和3年度から稼働しております。

一方、長期的な呑川の水質改善対策といたしましては、合流式下水道の改善事業がございます。本事業は、合流式下水道から河川などへ放流される汚濁負荷量を削減することで、良好な水環境を創出する事業でございます。呑川沿いに貯留施設を構築するためのシールド工法に必要な立て坑設置工事について、令和4年9月に着手いたしました。この事業が完了するまでの間は短期的・中期的な対策を進め、継続的かつ複合的に取り組むとともに、東京都や流域自治体とより一層の連携を図りながら、呑川流域全体での総合的な水質浄化対策を積極的に推進してまいります。

続きまして、名古屋市を流れる堀川の覆砂の取組に関するご質問でございますが、一級河川である堀川は名古屋市が管理しております。名古屋市の所管部局に確認したところ、堀川は河川の一部区間が潮の干満の影響を受ける感潮河川であり、中下流部でのヘドロの堆積や臭いなどの問題から水質改善が求められているとのことでした。

ヘドロの上に砂をかぶせる覆砂の取組は、水環境の改善に一定の効果があると考えられます。一方で、当該取組が施工された箇所は川の流量の増減が少ない箇所と見受けられまして、大雨時に流量が増す呑川とは条件が異なることが考えられます。また、費用対効果などの諸課題の検討も必要であり、区は、呑川での覆砂の実施については慎重であるべきと考えております。なお、様々なご意見をお伺いし、新たな方策について模索してまいります。区は、呑川の一部区間において、干潮時に露出する護岸部の汚泥清掃を実施しており、スカムや臭いの発生を抑制するよう取り組んでおります。今後も、各種水質浄化対策の効果を検証しつつ、実情に応じた水質浄化対策を推進してまいります。

続きまして、呑川沿いの駐輪場スペースに関するご質問でございますが、暫定自転車駐車を廃止した区間につきましては、区民の皆様や来街者に自然や潤いを感じながら快適に過ごしていただけるよう、水と緑の魅力ある空間としての整備を検討してまいります。また、呑川沿いの道路につきましては、従来から水と緑の環境軸として呑川緑道の整備を進めております。あわせて、休憩や語らいの場所となる触れ合いの拠点として、公園、広場なども整備しております。今後も、水と緑を楽しみながら快適に歩くことができる散策路の整備を進めてまいります。私からは以上です。

新型コロナ ウイルス感染症が猛威を振るい、社会情勢が激変したことから、身近な観光資源の発掘と磨き上げを行う、いわゆるマイクロツーリズムに